

水稻奨励(認定)品種「ゆめまつり」の品種特性

研究のねらい

県内平坦地域では「あさひの夢」が広く普及されており、平成22年度の作付面積は5,630haとなっています。特に、邑楽館林地域では「あさひの夢」が作付面積の70%を占め、気象災害や病虫害被害の危険分散をはかるため新品種の導入が求められていました。

そこで、県内平坦地域で高品質安定生産が可能な「ゆめまつり」を平成22年3月に奨励(認定)品種として採用しました。

技術の特徴

1 品種特性

- (1) 「ゆめまつり」は、「あさひの夢」並からやや遅い熟期で、収量(図)、外観品質が良好で安定しています。
- (2) 縞葉枯病、穂いもちに抵抗性を有し、ツマグロヨコバイ、セジロウンカ(写真)に対しても抵抗性を有する病虫害複合抵抗性品種です。

2 利用上の留意点

- (1) 標高は100 m以下に適します。
- (2) 安定的な収量を得るため、中苗の移植は6月25日までを目安とします。
- (3) ツマグロヨコバイ、セジロウンカに抵抗性を持ちますが、発生予察情報に注意し適切な防除に努めてください。

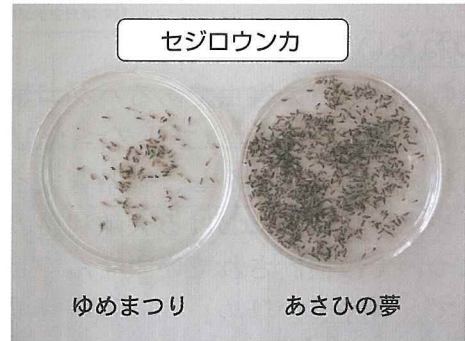


写真 セジロウンカ・ツマグロヨコバイ
すくい取り調査(資料:愛知農総試)

今後の取り組み

「ゆめまつり」の良質米安定生産のため、施肥試験および収穫適期試験に取り組んでいます。なお、県では当面の間、「あさひの夢」の作付面積が多い地域に「ゆめまつり」を先行して導入し、栽培特性および需要者の評価により県内平坦部への作付推進を図ることとしています。(執筆者:廣岡 政義)

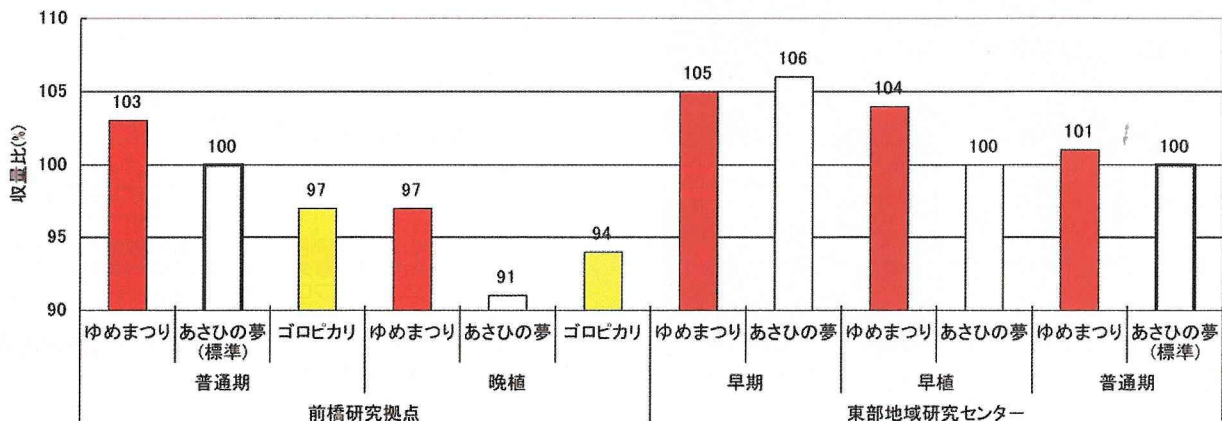


図 前橋研究拠点および東部地域研究センターにおける作期別収量比